

令和6年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学習指導要領の目標に照らしたより良い教育課程を編成する。 ②「自ら未来を切り拓く人材」の育成に向けた継続的で一貫した意識付け・動機付けを実践する。	①学習指導要領の円滑な実施を目指し、単位制の特色を活かした履修指導を行う。 ②1人1台端末などICT機器の活用によるプログラミング教育の充実を通じて、生徒の論理的思考力の育成を図る。	①希望進路の実現に向け、3年間の見通しをもった履修計画を立てさせる。 ②研修、研究授業の充実を図り、全ての教科でプログラミング教育の推進に取組む。	①履修計画作成にあたって、履修指導は適切に行われたか。 ②十分な研修、研究授業は行われたか。生徒にプログラミング的思考を身に付けさせることができたか。	①選択科目希望の結果より新2年次、新3年次ともに適切に行われたと思われる。 ②前期互見授業で強化日を設け、授業改善に対する全体の意識を高められた。期間外でも自主的な授業公開があった。	①関係グループとの情報共有を心掛けて、履修指導を継続する。 ②プログラミング教育研究推進校としての公開授業を通じて、他校の知見も積極的に取り入れる。	①生徒一人ひとりの希望に配慮した学習指導が行われ、学習指導要領の目標もおおむね達成できている。 ②計画に沿って、おおむね目的が達成できている。	①時間割作成を工夫して生徒の履修希望を満たすことができた。 ②職員にはプログラミング的思考が意識されてきたが、生徒への意識付けが弱い。	①引き続き履修指導をていねいに行い、履修希望を満たせるよう努める。 ②普段の授業の中でプログラミング的思考に触れる機会を増やす。
2	生徒指導・支援	①様々な生徒の状況を把握し、個々に対応した支援体制を構築する。 ②学校行事等を通じて生徒が主体的に取り組む態度を育む。	①生徒個々の状況を把握して、組織的に個別支援できる体制を充実させる。 ②生徒主体で学校行事を企画・立案・実施できるよう支援する。	①SC・SSW と連携するなど組織として生徒を支援する。 ②学校行事の委員会を中心に指導・運営する。	①情報共有や連携を図り、協力して課題への対応及び支援ができたか。 ②生徒主体で学校行事等を運営できたか。	①カウンセリング後、教育委相談コーディネーターを中心に情報を共有し支援に活かせた。 ②生徒の意見をよく聞き活動・運営に反映させた。	①支援が必要な生徒に複数の教員が対応しやすい環境を構築する。 ②準備を始める時期を早くし、余裕をもって計画実行できるようにする。	①教育相談コーディネーターを中心に支援体制が構築されており、生徒相談に適切に対応している。 ②学校行事は、生徒の意見等が反映されるよう十分な配慮がされている。	①メンタル面や人間関係に支援が必要なケースが引き続き増加傾向にある。 ②学校行事を生徒が主体となって実施することができた。	①情報の共有を図って組織的に対応するため、教育相談コーディネーターを中心に支援を行う。 ②前年度から準備できることには取組んでいく。
3	進路指導・支援	○自らの進路を主体的に切り開いていくため個に応じたキャリア観を育成し、進路指導の充実を図る。	○3年間を見通したキャリア計画を立て、生徒が自ら進路選択できるようなキャリア観を育成するとともに生徒の進路実現をめざす。	○各年次の目標と計画を検討し、適切な時期に講演会をはじめとするガイダンスおよび外部模試を実施していく。	○各年次で適切に講演会やガイダンスを実施し、生徒がおおむね満足できたか。	○各年次の計画目標に沿ったガイダンスや模試を滞りなく実施することができた。	○外部業者と事前打合せを徹底し、本校のキャリア計画に沿ったガイダンスを行う。 模試は終わらせるだけでなく、その活用を一層進めていく。	○外部講師による講演などを実施し、生徒自ら進路を選択できるキャリア観を学年毎に高め、模試の結果を活用しながら生徒毎に適切に進路指導をするという仕組みができている。	○大学入学者選抜の多様化や給付金の拡充が進んでいるので、情報を収集し適切な進路指導ができるよう検討していく必要がある。	○早めに収集した情報を精査して取捨選択し、適切な時期に提供できる体制をつくっていく。
4	地域等との協働	○生徒の社会参画の意欲向上に努め、地域等との連携・協働による教育活動の充実を図る。	○学校行事等を通じて、生徒と保護者・地域住民との交流を深める。	○地域等との連携を深め、事前学習を行って社会と関わりあうことの大切さと、社会に貢献する態度を育成する。	○学校行事等を通じて、学校と地域住民との連携を高めることができたか。	○ホタル観察会(260名)・地域福祉ボランティア(33名)に多くの生徒が参加し、事前・事後学習を通じて社会との結びつきを学んだ。また、地域清掃活動を通じて生徒の意識を向上させることができた。	○生徒の参加意欲をさらに引き出すよう取組み方を工夫する。 ホタル観察会・文化祭以外でも地域交流の在り方を他グループとも共有し、より良い方法を模索していく。	○ボランティア活動による地域の人々との交流が積極的に図られ、それにより生徒の地域貢献に関する意識も次第に高まる成果が得られている。	○ボランティア活動や地域貢献活動は予定通りに実施することができた。また、ホタル観察会では地域との交流を進めることができた。	○ボランティア活動の意義を生徒に理解させつつ、積極的に参加するよう働きかけていく。
5	学校管理 学校運営	①教育環境を整備し、より快適な学校づくりを進める。 ②職員の働き方改革を実現する学校管理体制を追求する。	①ICT機器を有効に活用できる教育機器を整備する。 ②業務の効率化を進め、タイムマネジメント意識の醸成を図る。	①ICT機器が有機的に連携できる環境を考慮しつつ整備する。 ②ICT機器の利活用などにより文書作成などの効率化を図り、効果的な情報共有の定着に努める。	①ICT機器が有機的に連携し、活用できる環境が整備できたか。 ②事務作業の軽減が図られ、自己研鑽や教材研究に向けたゆとりが得られたか。	①DXハイスクール事業の指定等により、機器の整備及び活用が進んだ。 ②文書整理や起案文書のデジタル管理を推進し、グループ内の業務の見える化を進めた。	①新規導入機器を有効活用するため研修等の充実を進める。 ②各リーダーを中心に業務の分業化を進め、周囲から支援する雰囲気づくりを推進する。 ICT機器の利用などで働き方改革につながるものを積極的に取り入れる。	①ICT機器と有機的に連携する教育機器を導入し活用が進められている。 ②ICT機器やICTサービスを活用することで職員の働き方改革を進めている。また、ICT機器やソフトの導入を進め、活用が始められている。	①機器の導入は進んだので、活用方法を工夫していく必要がある。 ②インターネットバンキングや採点システムの導入などで軽減を図ることができたが、さらなる軽減を図る必要がある。	①データサイエンス・AIの活用を前提とした探究的な学びを取入れていく。 ②前例にとらわれずに工夫できることがないかを検討していきたい。

